

LPガスCP情報(2017年5月積み)

1. 5月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **385** 円 (前月比 - 45 円)

ブタン **390** 円 (前月比 - 100 円)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油・石油製品市況が反騰・反落するなか、LPガス需要はピークを過ぎ需給緩和感が強まり市況は軟化した。プロパンカーゴについては台湾(石化)、韓国、中国の引き合いがありトレーダーの買いもみられたが、先月まで高騰していたブタンは中東供給の回復と米国ブタンカーゴの手当てなどにより供給過剰に陥り急落、プロパン・ブタン格差は解消に向かった。CP先物は第3週に400円割れ、極東CFR市況は中旬にプロパンが439円まで上げたが、第3週末でプロパン、ブタンともに410円どころへ軟化した。

一方、米モンベルビュープロパンスポット価格(FOB)は、全米プロパン在庫が高水準の輸出と堅調な需要で減少が続いているため高値で推移していたが、原油市況の反落を受けて350円台から第4週末には324円へと軟化。月間平均は340円/トン、前月比22円の上昇。

ナフサは前半の原油市況に連れ高、月間平均は480円、前月比10円の反発。バンカーオイルも原油市況に追随し、月間平均で312円、前月比12円の上昇。

5月CPは前年同月比プロパン60円、ブタン10円高。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン12ポイント、ブタン25ポイント低下、前年同月比ではプロパン13ポイント、ブタン30ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	32	29	32		
CP先物指標:P	390	415	380		
CP先物指標:B	420	430	380		

② 原油市況等

WTIは4月50.24円でスタート、OPEC加盟・非加盟国の協調減産期待と米シリア攻撃や北朝鮮問題など地政学上リスクの高まりで11日には53.4円まで上げた。一方、北米のリグ稼働数が急増2015年8月の水準(870基:ガス・石油計)にまで回復し、米国の原油生産量は日量924万バレルまで増加、米原油在庫は5億3千万バレル超と過去最高更新後も記録の高水準を維持、協調減産効果が米国の増産に減殺されるとの懸念から21日には50円割れとなった。下旬以降も協調減産延長への懐疑的な見方やリビア最大油田の操業再開などもあり49円台で推移しており、産油国の口先介入も限界で米シェール増産、在庫高が上値を重くしている。

一方、NYMEXのWTI総取組高は220万枚どころの高水準で推移、大口投機玉の買越残高は4月25日時点で41.2万枚とピークの2月からは15万枚減少した。米株高でリスク許容度は高いが、買建玉は手仕舞われ、売建玉は20万枚どころで推移している。

○4月積みアラビアン・ライト(4月1~28日まで)は52.24円(前月比+0.66円)

熱量等価AL100% プロパン428.31円/トン ブタン422.44円/トン

AL比 プロパン89.89% ブタン92.32%

***上記アラビアン・ライトはE I N推計値、確定値は後日、Webサイトでご確認ください。**

2. 2017年5月LPガス仕切(CPコスト変動分)への影響

適用期間	TTS	P:円建CP	B:円建CP	P前月比	B前月比
21~20日①	111.52	45,400	49,100	-6,800	-13,500
26~25日②	111.19	45,300	48,900	-6,800	-13,500
1~31日③	111.11	45,300	48,900	-6,600	-13,300

*TTS平均について、①が3月21日~4月20日、②は3月26日~4月25日、③は4月1~30日まで、①、②、③ともに5月仕切適用。①、②、③いずれも前月・当月CP50%案分。なお、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定もなされるため、CPコスト変動分と実際の仕切と異なるケースがあります。なお、2017年1月から一部元売プロパン仕切のフォーミュラがモンベルビュープロパンスポット価格とCPの合成FOBに変更されています。